

1. 園の教育目標

本園は、園児の健全な成長・発達を図ることを目的としています。幼児期における遊びは特に重要であり、子ども達同士の自由な遊びこそが様々な体験や情操教育にもつながっていくものと考えます。また、自由遊びだけではなく、動と静の切り替えをスムーズにできるよう、森信三先生や岡田武彦先生が提唱された腰立教育や論語素読、その他社会生活に必要な躰の部分にも取り組んでいます。理念にあるように、職員、園児、そして保護者がお互いに信頼関係をもって「にこやかな笑顔で黙って見守る」ことのできるよう、連携を図ってきたいと考えます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

令和7年度の重点項目

I 保護者対応

- ・ 今日の子どもの様子を伝えられるように子どもたちを見守る
- ・ 保護者や子どもたちの批判として受け止められない伝え方
- ・ 苦情や要望を言いやすい関係を作る

II 発達過程と遊びの関りを踏まえた保育

- ・ そのひとり遊びはその子らしさか ・ 集団遊びに展開すべきか
- ・ 粗大運動から微細運動への展開 ・ 眼球運動はスムーズか
- ・ OT や ST と渡り合える知識とスキルの習得

III 相談しやすい雰囲気を皆で創ろう

- ・ 望ましくない保育を互いに確認しあう
- ・ 悩んでいる職員をそのままにしない

3. 目標・計画に対する総合的な評価結果

I について

令和6年度を反省に、職員が働きやすい職場環境、働き方改革に取り組んできました。具体的には休憩室の整備、職員交流の補助、処遇改善です。それでも職員間の人間関係、特に新規採用における試用期間の運用について課題があったものと考えております。子どもの命、生活、保護者が安心して預け、相談できる場を守っていくために、さらなる職場環境の整備に努めていきたいと思います。

II について

主任、副主任をはじめ、それぞれが役割を発揮してくれていますが、主体的な学びを促すためには、刺激のある研修を受ける必要があると考えております。そこで、当園ではつまらない研修ではなく、より刺激的かつ意欲の湧く研修を受講させるようにしています。令和7年度は有名講師のオンデマンド研修、県外研修に重点をおきました。引き続き、職員自身が自らの成長を感じられるような研修計画を立てるとともに、ぴある一ととの連携を図り、子どもたちの発達面においても支援できるスキルの習得を目指して参ります。

III について

全てのクラスが複数担任であることから、人間関係はその都度様々な課題があったものと認識しています。令和7年度は新規採用にについて課題が残りました。良かれと思って免除した試用期間はきちんと守ることが、園を守ることにもつながることを気付かせてもらいました。今後は採用において当園の方針に合致する人材かどうかを園長だけの目ではなく、職員の目でも見ながら判断するよう徹底したいと思います。

4. 今後取り組むべき課題

ホール・給食室棟は15年、事務所棟は10年を経過します。令和7年度には未満児用の遊具の買替をしましたが、様々な箇所で修繕や買い替えが生じて来るものと想定しています。子どもたちが安全に遊べる環境、保護者が安心して預けられる環境、職員が意欲的に働ける環境を作っていけるよう取り組んで参ります。